



子育て支援に関する講座A

「子どものスマホ・ゲーム機利用のあり方」

この講座では、子どもたちの健全育成に向け、保護者を含めた地域社会の大人が、どのように考え行動したらよいかを学びます。

今回は岡谷市で開催し、本年度4月に立ち上がった全県規模の協議体「子どもとメディア信州」の代表を務められている松本市立菅野中学校の松島恒志校長先生を講師としてお招きし、子どもたちのスマホ・タブレット機器等への依存傾向が進む現状や、ゲーム症・障害など心身への影響、ネット上のいじめや犯罪に巻き込まれたりする危険性について学び、家庭や地域で大人がどのように対応したらよいかを考えました。

「子どもたちを取り巻く現状が理解できた」「何よりもコミュニケーションをとることが大切だとわかった」など、子どもたちとの関わり方を見返す機会となりました。(受講者数120人)

〈研修内容〉 【講義】

- ・演題 「子どもとスマホ・ゲーム機利用のあり方 ～大人はどうすればいいのか～」
- ・講師 子どもとメディア信州 代表
松本市立菅野中学校 校長 松島 恒志 氏
- ・内容
 - 子どもとメディアに関する現状把握の大切さ
 - 携帯電話・スマホ所持率
 - 子どもの悩み
 - 過剰なメディア接触、
希薄な親子関係は互いの心をゆがめる
 - 親ができること、我が子に与えるべきものは
 - 質疑応答



受講者アンケートから

- 最近の子どものゲームの状況などがわかった。子どもの関わり方を再度認識させられる内容であった。(少年愛護委員)
- スマホ・ゲーム機がなぜいけないのか、様々な角度から具体的に学べてよかった。まず、コミュニケーションが大切であることがわかった。(少年愛護委員)
- 子どもたちを育てる大人という視点で講義をしていただき、ただ「いけない」というだけではなく、じゃあどうすればよいのか考えるよい機会となりました。(少年愛護委員・学校教職員)
- 子どもたちの現状を理解し、今後の問題について見つめなおすきっかけになった。(少年愛護委員・学校教職員)
- 我が事だと思い、真剣に子どもと向き合わないといけないと感じました。(少年愛護委員)
- 今の子どもが置かれている状況を理解し、問題点を一緒に話し合う(直接目を見て話をする)ために活用したい。(少年愛護委員)